

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 10月号

1. 営農支援隊がスイカの収穫と出荷を支援 & スイカの販売額 33 億円達成！

体調不良により収穫が困難になった農家のもとへ営農支援隊が訪れ、スイカの収穫・出荷作業を支援した。8月6日には支援隊員2人に加え、J A職員7人、農家の有志6人、行政関係者14人が参加。J Aと行政が連携して支援を行うことで適期を逃さずに全量出荷することを目指した。農家に対する支援活動は今回が4回目。

また、J A鳥取中央は9月16日に鳥取市の県庁を訪れ、令和2年産のスイカの販売高が3年連続で30億円を突破し、さらに19年ぶりに33億円を達成したことを平井鳥取県知事に報告した。

需要が供給を上回ったことで量販店の売り場面積が確保されたこともあり、初販売から単価を下げることがなく高単価で推移し、安定した販売となった。さらに、人気アニメクリエイターを起用し、ツイッターなどのSNS上で鳥取スイカの魅力を発信することで新たな消費者層の購買に繋がったことも要因の一つと考えられる。

栗原組合長は「コロナ禍で対面販売活動ができないなど心配もあったが、終始高単価で推移する良い結果となった。今後もいろいろな販売戦略を組み合わせ、さらに生産を拡大し鳥取スイカを日本全国に届けたい」と話した。



2. 献上梨選果・引渡式を開催！

天皇皇后両陛下、上皇上皇后両陛下、秋篠宮皇嗣同妃両陛下へ献上する梨の選果・引渡式を9月9日に倉吉市で開いた。

昭和39年から県内産地を順番に梨を献上しており、倉吉梨生産部では平成21年9月11日以来11年ぶりの4回目となる。

今回は福永さん、河本さん、馬野さんの3名が育てた「二十世紀」梨を献上する。「二十世紀」梨を300玉から84玉に厳選し、糖度10.5度以上、3L以上でキズが無く色や形が揃ったものをJ A役員や来賓らが選果した。

梨を献上した馬野さんは「引渡式が無事に終わってホッと安心した。曇雨天で生育は心配したが、8月からは好天が続いたので味がのった梨に仕上がった」と話した。



3. 組合長が女性担い手と意見交換！（役員による担い手対話運動）

栗原組合長は、管内の担い手農家へ出向く活動に取り組んでいる。9月17日には女性担い手を訪問し、女性の視点から見た生産現場の課題や要望を直接聞き取った。

琴浦町で主にブロッコリーを生産する手嶋さん、娘の山崎さんからは「収穫時の労力負担や人出不足のサポート体制、ドローンでの散布可能な農薬の登録促進」など女性担い手が抱える



労力軽減を中心とした問題解決案が挙げられた。栗原組合長は「即戦力として農家の需要に対応できる体制の強化と県などへ農薬登録要請をし、スマート農業の取り組みを更に推進する」と伝えた。

同じくブロッコリー生産者の小前智栄さんと千英さんは今後、加工品の製造に向けて輸送コストの低減や保存に適している新技術の「フリーズドライへの取り組み」などを要望した。栗原組合長は「ブロッコリーの生産振興に向けた取り組みの一環として努めたい」と話した。

J A鳥取中央は今後も定期的に訪問活動をしていく方針である。